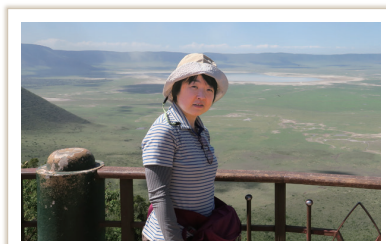


■ 新任医師ごあいさつ

小児科 山下裕子医師 Hiroko Yamashita

こんにちは。今年の4月から小児科に勤務しています。核家族化が進み、ネットでは様々な情報が飛び交う今、悩みながら子育てされるご家族が多いと思います。そんな中、笑顔でお子さんと過ごせるように、新生児期から関わって、お手伝いができればと思っています。よろしくお願いします。



■ 院内研究発表会

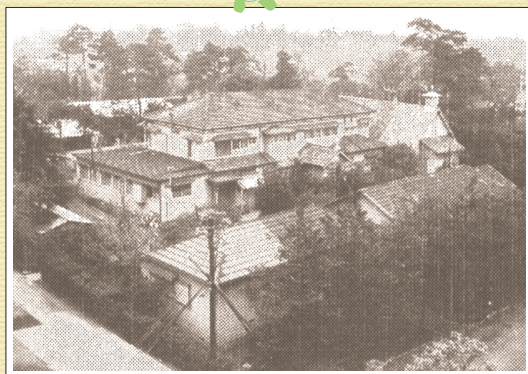
桜町病院では毎年3月に各部署による院内研究発表会を行っています。本年は3月9日に開催し、療養病棟、栄養科・QC委員会、南3階病棟より3題の研究発表が行われ、審査の結果、最優秀賞には栄養科・QC委員会が取り組んだ「栄養をつなぐ」が選ばれました。その取り組みの内容は、近年増えつつある嚥下調整食（飲み込みが困難な人への食事）に対応するため、多職種が摂食嚥下機能に合った食形態を理解し、退院後まで安心して食べられる連携体制作りを目指し実践したものです。

■ 聖ヨハネ会合同入職式

まもなく満開になろうかという桜が美しい4月1日、聖ヨハネ会の合同入職式が戸塚ホールにおいて執り行われました。冒頭に理事長から聖ヨハネ会設立の理念を胸に、医療部門、障害部門、高齢部門の各施設が連携して業務にあたっていただきたいというお話がありました。その後、桜町病院長始め各部門長から歓迎の挨拶があり、新入職員の皆さんのフレッシュな緊張感に包まれた晴れやかな式となりました。



ご存知ですか？



初期の頃の病院全景

創立当初の桜町病院

桜町病院が創立された80年前の周辺はどんな様子だったのでしょうか。『聖ヨハネ会50年誌』には、当時の小金井は「見渡す限りすすきが原か畠が少しあるようなところで」と書かれ、病院創立者戸塚神父の日記から引用し「樹木なく勾配なきが難なれど実に心地よき所なり」としています。当時桜の名所であった玉川上水にほど近いこともあり、戸塚神父も人力車で桜堤までお花見に出かけたこともあったそうです。開院当初の所在地は「東京都北多摩郡小金井町大字小金井小長久保2886番地」、まだ桜町という町名がなかった頃に、戸塚神父が命名し桜町病院が建てられたことがわかります。

編集後記 梅雨の季節となりました。長雨に蒸し暑さが重なり、あまり過ごしやすい季節ではありませんが、しとしと降る雨に濡れるアジサイを愛でるのも風情があります。今年こそは穏やかな梅雨で終わってほしいと願うばかりです。(周)

〒184-8511 東京都小金井市桜町 1-2-20 / TEL042-383-4111 (代) [http:// www.sakuramachi-hp.or.jp/](http://www.sakuramachi-hp.or.jp/)

基本理念

私たちはキリストのように人を愛し 病める人、苦しむ人 もっとも弱い人に奉仕します

基本方針

1. 地域の医療機関や福祉施設と密接な連携を保ち、地域に根ざした信頼される病院運営をめざします。
2. 患者さんの全人的（身体的、精神的、社会的、霊的）ケアを行います。
3. 医療従事者の力を結集した患者さん中心の総合的なチーム医療を行います。
4. 常に自己研鑽に努め、質の高い、安全・安心な医療を提供します。
5. 患者さんの声に誠心誠意耳を傾けます。

Close Up!

ホスピス病棟の役割とは

ホスピスという言葉

「ホスピス」という言葉に、多くの方たちが思い描くのは「末期がんの人が死を迎えるところ」というイメージではないでしょうか。日本の病院でホスピスケアが実践されて46年、ホスピスという建物が誕生して38年になる今でも、そう思っている方が実に多いと感じています。世界的にはホスピスのルーツは中世ヨーロッパに遡ります。疲れて倒れたり、病気になったりした巡礼者に、修道院のシスターたちが一夜の宿と食事を提供し、温かくもてなしたというのが、ホスピスの源泉と言われています。その後、ケアの対象となった人はハンセン病や結核など、時代の変遷と共に変化し、1967年ロンドンにセントクリストファーホスピスが設立され、がん患者を中心とした近代ホスピスは世界中に広がってきました。

ケアリングマインドとは

そのセントクリストファーホスピスを設立した、シシリー・ソンドース先生は、人生の最期に際して患者・家族の苦しみからの解放を優先し、尊厳のもとにケアを提供するために働く人々の心のあり方を「ケアリングマインド」として示されました。それは、「全人的なケアを念頭においた温かくもてなす心を持って、困難や苦痛を抱えている人と向き合おうとする姿勢」と私はイメージしています。実はこの「**ケアリングマインド**」は**痛みや苦しみを抱えている人に向き合おうとする、すべての人に持ち続けてほしいものであり、ホスピス緩和ケアに留まらない、普**

遍的な概念です。桜町病院は「聖ヨハネ会」という修道会が母体にあり、当「聖ヨハネホスピス」だけでなく桜町病院全体が、その基本理念を桜町マインドと称し「キリストのように人を愛し、病める人、苦しむ人、最も弱い人に奉仕する」ことを目指しており、正にケアリングマインドを持ち続けることの大切さを示しています。

ホスピスケアに求められていること

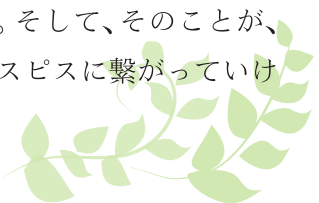
ホスピスに来られる方が、一番望んでおられることは「痛みを取ってほしい」です。人の抱える痛みは、身体の痛みや心の痛みにとどまらず、仕事やお金のこと・家庭のことなど社会的痛みと言われるもの、さらには生きている意味や自分の存在価値に関わるような魂の痛み、即ちスピリチュアルペインと言わ



ホスピス科部長
三枝 好幸
Yoshiyuki Saegusa

れているものなど、多くの痛みが混在しているのが普通です。人は決して、鎮痛薬・抗うつ薬・抗不安薬など薬物療法に代表される医療という枠の中だけに生きているわけではありません。病気は治らないかもしれないけど、この病気とうまくお付き合いしていくにはどうしたらいいのか、残された人生をどう生きていったらいいのか、共に考える作業をすると

ころがホスピスです。従って、当院のホスピス病棟の役割は「痛みや苦しみを抱えている人と向き合い、全人的ケアを通してその人の人生に寄り添おうとしていくこと」と考えています。そして、そのことが、皆様から真に必要とされるホスピスに繋がっていければと切に願っています。



チーム桜町 放射線科

現在、放射線科は診療放射線技師8名と事務員1名の計9名で業務を行っております。当科は画像診断に関係する部門であり、胸部や骨などを撮影する一般撮影装置2台、乳房撮影装置、薄さ1ミリの断面画像を描出するCT装置、磁場の力で任意の断面画像を描出する1.5テスラMRI装置、バリウム胃造影などをする透視下撮影装置、骨密度測定装置、病室巡回ポータブル撮影装置2台、手術中X線透視をする外科用イメージ装置を備えております。これらの機器装置を駆使し、多種多様の撮影業務を行っております。

特にCT撮影とMRI撮影は、年間CT：2800件以上、MRI：2000件以上の撮影があります。基本的には予約検査ですが、緊急検査や当日検査にも対応しており、画像は担当主治医と放射線診断専門医によるダブルチェックが行われています。病気の確定診断に繋がる事も多く重要な検査といえます。
我々は日々、様々な撮影にあたって患者様の安全を第一に考え、撮影技術や画像診断の読影力などの向上に心掛けております。
(放射線科長 木村 忠高)



マンモグラフィ検査のすすめ

当院で実施されているマンモグラフィ検査は年間約1000件前後で、その全てを女性技師(2名)が対応しています。画像はデジタル画像で、撮影を実施すると画像はパソコンに保管され、後日マンモグラフィを読む専門の乳線外科医により読影がされます。

マンモグラフィ検査は技師が乳房に直接触れ、さらに乳房の厚みをなるべく薄くするために装置により圧迫を行います。個人差はありますが、圧迫により痛みを感じることも少なくありません。このように検査の性質上患者様への負担が大きく、患者様の協力なくしては良いマンモグラフィ検査をすることができません。マンモグラフィ検査を受ける機会は検診目的で受ける場合と何か自覚症状があって受ける場合がありますが、いずれにしても患者様が検査にあたり不安を感じていることにかわりありません。

私たち技師は患者様への負担をなるべく少なく、また少しでも不安を和らげることができるよう日々心掛けて検査に対応しています。



私たち女性技師が対応します！

栄養科のおいしい&ヘルシー Recipe

監修：管理栄養士 松尾敦子

No.4

ひじきサラダ

ひじきといえば鉄分が豊富というイメージかと思いますが、最近はひじきを煮沸する際に使用する釜が鉄からステンレス製になり、鉄分量が1/10近くに減少しています。とはいえ、ひじきは食物繊維やカルシウムの吸収にかかせないマグネシウムが豊富です。そして何より低カロリー。定番ひじきの煮物も美味しいですがサラダもさっぱりしていて美味しいです。「ひじきサラダ」ぜひ作ってみてください。

材料

2人分(1人分40Kcal食物繊維4.3g カルシウム140mg ※牛乳200ccでカルシウム220mg)

乾燥ひじき10g にんじん10g きゅうり60g
セロリ10g 醤油下味用小さじ1 醤油小さじ2
ごま油小さじ1 生姜12g 酢小さじ2
練りわさびチューブ1cmぐらい

作り方

- 1 ひじきをたっぷりの水に15分～20分くらいつけてもどす。
- 2 ざるにあげてよく洗いを切っておく。



One Point ひじきの煮物とはちょっと違ったさっぱりとした味わい！

- 3 下味用醤油にわさびをといておく。
- 4 ②をたっぷりのお湯でさっと茹でざるにあげる(やわらかくなりすぎないように)。
- 5 ④があたたかいうちに③で和えて下味をつけて冷ましておく。
- 6 にんじん、きゅうり、生姜は千切りにする。セロリは皮を剥いてなめ薄切りにする。
- 7 醤油、酢、ごま油を合わせておく。
- 8 ⑤が冷めたら⑥を混ぜ合わせて⑦を入れてよく和える。

医療のコトバQ&A

第4回「認知症サポーター」

〈回答者〉精神保健福祉士 菊池 里香

Q. 認知症サポーターとは何ですか？

A. 「認知症サポーター」とは、『認知症の方に対して、何か特別な事をする人』と思われがちですが、そうではありません。認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で生活する認知症の人やその御家族を、自分のできる範囲で支える応援者になるだけでも良いのです。現在、地域では認知症サポーターとして、小学生から高齢者まで様々な方が活躍されています。



Q. サポーターにはどうしたらなれますか？

A. 認知症サポーター養成講座を受講した人は、みんな「認知症サポーター」です。厚生労働省では、新オレンジプランという認知症施策のもと、「認知症サポーター」を全国で養成し、認知症高齢者等にやさしい地域づくりに取り組んでいます。そのための人材育成として「認知症サポーター養成講座」を行っています。認知症サポーター養成講座は、地域、職域団体、学校等、様々な場所で開催しています。当院においても、全職員が認知症サポーターになるべく、年に数回、院内で講座を開催しています(サポーターの目印はオレンジリングです)。受講希望の方は、各市区町村へお問い合わせください。定期開催や出張講座をしている場合もあります。1時間半程度の簡単な講座です。ぜひ、皆さまも受講してみてください！